

【第7回「忘れられない看護エピソード」入賞作品発表】

## 心温まる感動的な看護エピソード

応募 3,578 作品から最優秀賞などが決定！

公益社団法人 日本看護協会（所在地：東京都渋谷区／会長：坂本すが）は、本日（5月7日）、日本看護協会 JNA ホールにて第7回「忘れられない看護エピソード」表彰式・トークショーを開催しました。

「忘れられない看護エピソード」は、厚生労働省と日本看護協会が「看護の日・看護週間」にあたって、看護職や一般の方々を対象に、看護の現場で体験した心温まるエピソードを募集し、入賞作品を表彰するものです。今回は、全国各地から過去最多の3,578作品が集まり、厳正な審査を経て入賞20作品が決定しました。

表彰式では、来賓や抽選で招待された観覧者ら250名が見守る中、最優秀賞、内館牧子賞などの発表と表彰を行いました。「看護の日」PR大使である川島海荷さん（女優）も来場し、最優秀作品の朗読やトークショーを行い、華やかなセレモニーとなりました。

### ■最優秀賞

【看護職部門】	「忘れられない親子の姿～血のつながりってなんだろう～」	瀬上 希代子さん	49歳	<福岡県>
【一般部門】	「赤い星」	洲本 美智代さん	39歳	<兵庫県>

### ■内館牧子賞

【看護職部門】	「闇の中の私」	小谷 英子さん	54歳	<京都府>
【一般部門】	「痛みを共有して下さって」	宮内 瑞穂さん	70歳	<千葉県>



2列目左から：厚生労働省大臣官房審議官 椎葉茂樹、川島海荷さん、日本看護協会会長 坂本すが

前列左から：小谷英子さん、宮内瑞穂さん、瀬上希代子さん、洲本美智代さん、内館牧子さん

<報道関係のお問い合わせ先>

第7回「忘れられない看護エピソード」広報事務局 担当：副島、森田、武神

TEL：03-3583-6157 FAX：03-3583-6208

## ■入賞者一覧

部門	賞	作品名	受賞者	年齢	出身地
看護職部門	最優秀賞	忘れられない親子の姿 ～血のつながりってなんだろう～	せのうえ 希代子 瀬上 希代子	49歳	福岡県
	内館牧子賞	闇の中の私	こたに えいこ 小谷 英子	54歳	京都府
	優秀賞	がんサロンのパイオニア	きたの まみ 北野 真実	55歳	石川県
		旅立ちのお手伝い	こさき あやこ 小崎 綾子	41歳	東京都
		どんぐりころころ	しぶや なおみ 澁谷 奈緒美	34歳	新潟県
	入選	今日は、いい日だ	あさの はるか 浅野 春香	30歳	愛知県
		たまご	くろいわ えみ 黒岩 絵美	44歳	大阪府
		災い転じて	さとう かつこ 佐藤 量子	57歳	新潟県
		だいじょうぶ、だいじょうぶ	おかだ みゆ 岡田 美優	23歳	北海道
		むこう側	なかやま さおり 中山 早織	32歳	鳥取県
一般部門	最優秀賞	赤い星	すもと みちよ 洲本 美智代	39歳	兵庫県
	内館牧子賞	痛みを共有して下さって	みやうち みずほ 宮内 瑞穂	70歳	千葉県
	優秀賞	温かい心で寄り添って	なかだ まゆみ 中田 真由美	53歳	埼玉県
		「今」を生きる力	まつおか しげなが 松岡 茂長	67歳	京都府
		心を支える看護	おおの ともこ 大野 倫子	59歳	愛媛県
	入選	抱きしめられて	にいやま めぐみ 新山 恵	41歳	埼玉県
		彼女との約束	くろき にいか 黒木 新香	20歳	宮崎県
		峠を越える応援歌	ただ かずお 多田 一雄	64歳	栃木県
		わたしの道	よこはま はなこ 横濱 華子	20歳	神奈川県
		ありがとう、せつ子さん	かとう けいこ 加藤 慶子	58歳	栃木県

## ■第7回「忘れられない看護エピソード」概要

【部門・応募資格】： ①看護職部門…現在、国内で看護職に就いている方、または過去に看護職に就いていた方

②一般部門…日本国内在住の方

【募集内容】： 「看護」を通して得られた忘れられない思い出やエピソードを 800 字以内でまとめたもの。  
作品には必ずタイトル(題名)を付記。

【募集期間】： 2016年11月1日(火)～2017年2月3日(金)

【応募作品数】： 3,578 作品(昨年度 3,305 作品)

【賞金・賞品】： ■最優秀賞…賞金 20 万円(各部門 1 作品)  
■内館牧子賞…賞金 10 万円(各部門 1 作品)  
■優秀賞…賞金 3 万円(各部門 3 作品)  
■入選…「看護の日」オリジナルぬいぐるみ「ナースシティ 2017」(各部門 5 作品)  
■応募者全員…第7回入賞作品収載の小冊子(「忘れられない看護エピソード」集)

【審査員】： 特別審査員 内館牧子さん(脚本家)、ゲスト審査員 川島海荷さん(「看護の日」PR 大使、女優)  
厚生労働省・日本看護協会関係者など

【主催】： 厚生労働省、日本看護協会

## 【最優秀賞 看護職部門】

「忘れられない親子の姿～血のつながりってなんだろう～」

瀬上 希代子 49歳 <福岡県>

長く NICU（新生児集中治療室）で看護師長として勤務してきた。その中で、忘れられない「親子の姿」がある。ある日、1人の赤ちゃんが入院してきた。Aちゃんは低体温で入院した。しかし、もう1つの理由は「育児者がいない」というものだった。

周りの赤ちゃんは両親が面会に来ている。看護師たちは、面会のないAちゃんを抱っこしたり、目を合わせて話し掛けながら授乳するなど、できる限りの愛情を注いでいた。

担当看護師Yさんは、Aちゃんの日記をつけていた。毎日少しずつ大きくなっていく体重、増えていくミルクの量をはじめ、看護師がどれだけAちゃんをかわいいと思っているかをつづり、写真や手・足型を取って、日記に貼っていた。「大好きだよ」のメッセージと一緒に。

3週間の入院で、Aちゃんは乳児院へと退院し、その後のAちゃんについての情報が病院に入ってくることはなかった。

それから5年後。Aちゃんの里親さんから「担当していた看護師に話を聞きたい」と連絡があった。Yさんは他部署へ異動していたが、連絡をとり、お会いする機会を持った。

特別養子縁組をしてB家の長女となった、5歳の笑顔のかわいいAちゃんは、お母さんと一緒に会いに来てくれた。お母さんはAちゃんが物心つくころには事実を話していたこと、愛情深く育てていること、そして生まれてすぐに入院した病院で看護師たちにとってもかわいがってもらっていたことを、Yさんの日記を見せて話をした、と教えてくださった。

『愛されていた』ということの証となる日記を作ってくださいありがとうございますとお礼を言っていた。

NICU という環境の中で、時には血のつながりって何だろう、と考えることがある。Aちゃんを取り巻いた色々な形の愛情からは、人と人とのつながりの奥深さと、愛情をもって接することの偉大さが感じられた。

若い看護師であったYさんも、今は一児の母である。とても愛情深い育児をしながら、看護師としてがんばっている。

### ■瀬上 希代子さんのコメント

日頃から現場で得た経験をエピソードという形で文字に残していたのですが、今回初めて応募して偶然にも最優秀賞になったのでとても驚いています。エピソードに書いたAちゃんがつらい人生を送ることなく温かい家庭の愛に包まれたことがとてもうれしく思います。

これからも自分の体験をエピソードに残して仕事の励みにしていきたいと思っています。

【最優秀賞 一般部門】

「赤い星」

洲本 美智代 39歳 <兵庫県>

秋も深まり冬の気配が近づく夜のことだった。

「お母さん、僕は星空を見たことがないねん。夜にお出掛けしたことないやろう？ 本物の星空を見てみたいなあ」。そう話す息子には、もう時間がない。

難病で肺を患い、入退院を繰り返して9歳になった。夏の終わりまで、酸素ボンベを乗せた車いすで病院の周りを散歩することができた。しかし、今では外出もままならず、病室の天井と壁を見つめる日々が続いている。

外の世界といえば、わずかに見える窓からの景色とテレビ、そして大好きな図鑑を眺めることだった。「図鑑があれば何でも分かるから」と、いつも枕のそばに置いていた。

少しの時間だけでも星空を見せてやりたいと医師に相談してみたが、容体は安定せず、外出の許可は下りなかった。私は「願いをかなえてやることができなくて悔しい」と担当の看護師にぼつりと漏らした。

すると次の日、看護師が家庭用の小さなプラネタリウムを持ってきてくれた。手のひらサイズの宇宙の登場に息子はとても喜んだ。夜を待ち、個室の電気を消してスイッチを入れると、天井と壁一面に冬の星空が広がった。図鑑で覚えたオリオン座を見つけると、「ベテルギウスは一等星で赤い星やで。僕は赤が好きやから、ベテルギウスは僕の星やな。もう寂しくないわ」とうれしそうに笑った。

病室で星空を見た数日後、息子は眠るように逝った。

看護師の仕事といえば点滴の交換や患者の世話をすることだと思っていた。しかし、体に触れるだけではなく、患者と家族の気持ちに寄り添いそっと支えることも看護ではないだろうか。

プラネタリウムのおかげで息子も私も救われた。最期の自由を与えてくれた看護師の優しさに心から感謝している。

■洲本 美智代さんのコメント

息子の死をきっかけに看護を学ぼうと思い、現在看護学校に行き学んでいます。これがなければ看護の世界には足を踏み入れなかったと思います。今回の受賞は天国の息子も喜んでいると思うし、双子で生まれた娘も受賞を喜んでいるので、頑張っ立派な看護師を目指したいと思います。

【内館牧子賞 看護職部門】

「闇の中の私」

小谷 英子 54歳 <京都府>

ショートムービー化作品  
(次ページ参照)

私はスーツケースの中、ふたがゆっくり閉められる。「わああー」。自分の声で目が覚める。あー夢か。ここは病院。

私は、道を横断中、バイクにはねられた。体が一瞬宙に浮き地面にたたきつけられた。肩・肋骨・腰・骨盤・足の骨折でベッドから動けない患者になった。「あの夢は、今の私?」。尿の管を入れオムツをして、1人では寝返りもできない。事故に遭う前は、看護師として働いていた。幾人もベッド上の患者さんを看てきたが、自分がそうなるとは。

食事、排せつ、体位変換、全て他人の手に委ねないとできない。看護師さん呼びたいけれど忙しそう。さっきからナースコールが頻回に鳴っている。自分が仕事をしていた時を思い出す。「あーなんでこんなことに」。悲しくてタオルで口を押さえて泣いた。眠れない夜だ。

「おはよう。眠れましたか」。明るい声が病室に入ってきた。看護師長さんだ。私は動かせない体がつらくて眠れないことを訴えた。師長さんは、「ここが痛いでしょ」と私の腰に手を入れてくれた。

(そう、そこ。なんで分かったのか、気持ちがいい)

思わず涙が出てきた。今まで我慢していたものがせきを切って流れ出した。なぜこんな体になってしまったのか、大きな声で泣いた。

師長さんは、私の腰をさすりながらじっと話を聞いてくれた。そして私の興奮が収まった時、こう言った。「元気な時の自分と比べたらだめ。事故直後はどうだった? 今日と比べてどう? 少しずつ良くなってない? 焦ったらだめ。一步一步よ」

確かにそうだ。見方を変えると不思議と気持ちが楽になる。固まった体がほぐれていく。

あれから3年、看護師として復帰した。家に帰る患者さんの退院支援を行っている。どういう支援をしたら良いか、自分の経験を生かし考えることができる。暗闇の中の私を救ってくれたあの温かな手と、あの言葉で、私はもう一度白衣を着たいと強く願った。正直、前の体ようにはいかない。でも自分に言い聞かせている。「焦らず一步一步よ」。

【内館牧子賞 一般部門】

「痛みを共有して下さって」

宮内 瑞穂 70歳 <千葉県>

昭和48年1月24日早朝、一日中苦しんだ陣痛の痛みから、ようやく私は解放された。この世に生まれ出た途端に「おぎゃあ、おぎゃあ」と激しく泣きじゃくる長男の産声。真っ赤な顔をして、それはまさにお猿さんにそっくりだった。

助産師さんが産湯を使った後に、白いベビー服を着せたわが息子を抱っこした。寝ている私の顔のすぐそばに、長男を近づけてきて「おめでとう! お母さんになりましたね。本当に良くがんばりました。ほらとても元気な赤ちゃんですよ」。なんと優しい温かい言葉。母になったという感動がジーンと私を包み込む。

「一晩中見守ってくださって、ありがとうございます」。顔中涙でぐしょぐしょになりながら、手渡されたネームバンドを息子のその小さな足首に取り付けた。

その時である。助産師さんの腕の血管が、一部ドス黒く浮き上がっているのに、私はハッとした。「ひょっとして、それは……」

痛々しい助産師さんの前腕部分。波のように次々と襲ってくる陣痛の鋭い痛みを耐えかねて、そばで励ましてくださっていた彼女の腕を、思わず私は思いっきり強く握りしめてしまっていた。ベッドの柵があったにもかかわらず、柵を握らずにひたすら助産師さんの腕を、握りこんで離さなかった。

「ごめんなさい。痛かったですでしょう」。心から謝った。

「いいんですよ。私もお母さんと一緒に、赤ちゃんが生まれてくるのを、腕の痛みを耐えながら、共にがんばれたんですもの」

心温まる優しい言葉を返してくださった。

長男が誕生したあの時から、半世紀に近い時が流れた。その長男に女の子ができ、私は祖母になった。かわいい孫を見ていると、あの出産時の、陣痛の痛みを共有してくださった、助産師さんを思い起こす。そっと机の引き出しの奥から、当時の母子手帳を取り出してみた。少々紙が変色してはいるが、助産師さんのサインが輝いて見えた。



**心温まる感動的な入賞作品をさまざまな場所でお楽しみいただけます。**

- ①第7回「忘れられない看護エピソード」入賞作品パネル展！
- ②内館牧子賞受賞作品のショートムービー公開！
- ③入賞作品集（小冊子）をプレゼント！

### ①第7回「忘れられない看護エピソード」入賞作品パネル展！

今回の最優秀賞、内館牧子賞、優秀賞、入選の合計20作品をパネルにして日本看護協会ビル内「JNA プラザ」で展示します。ご来場の方には、入賞作品を収めた小冊子「第7回『忘れられない看護エピソード』集」を差し上げます（なくなり次第終了）。

期 間： 5月8日（月）～6月30日（金）10：30～17：00（13：00～14：00を除く）  
土・日曜は休館、入場無料  
場 所： 日本看護協会ビル3階「JNA プラザ」（東京都渋谷区神宮前5-8-2）

### ②内館牧子賞受賞作のショートムービーを公開！

今回は、看護職部門で内館牧子賞を受賞した「闇の中の私」をショートムービー化しました。この映像を日本看護協会ホームページ（<http://www.nurse.or.jp>）で公開しています。また、上記の入賞作品パネル展でも上映していますので、ぜひご覧ください。



### ③入賞作品集（小冊子）をプレゼント！

入賞作品を収録した小冊子「第7回『忘れられない看護エピソード』集」をご希望の方にプレゼントします（お1人様1部、送料無料）。

下記の①～⑥を明記の上、はがき、FAX、Eメールのいずれかでお申し込みください（なくなり次第終了）。

①郵便番号②住所③氏名④年齢⑤職業⑥電話番号

※記載いただいた個人情報は、冊子発送のためにのみ使用いたします。

<申込み先>

- はがき : 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-8-2  
日本看護協会 広報部「冊子プレゼント」係
- FAX : 03-5778-8478（件名に、「冊子プレゼント希望」と明記）
- Eメール : koho@nurse.or.jp（件名に、「冊子プレゼント希望」と明記）

